

平成31年度
入学試験問題

国 語

2月1日 午後

受験番号	氏 名

中村中学校

問題は次のページからです。

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 二つの会社がトウゴウされる。
- (2) 動物には危険をサツチする力がある。
- (3) フクザツなパズルにちよう戦する。
- (4) 旅行先での電車のウンチンを調べる。
- (5) ジュウライの半分の時間で作業が終わる。
- (6) 小学生をタイショウにした新聞を読む。
- (7) 災害にあった町が少しずつフツコウしていく。
- (8) 風がイチヨウの葉をチらす。
- (9) この痛み止めはキキ目が長持ちする。
- (10) 友人のたのみをココロヨク引き受ける。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合により本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

Kさん、あなたはマリー・ホール・エッツの『わたしとあそんで』(与田準一訳／福音館書店)という絵本を手にしたことがありますか。一九五五年にアメリカで出版されて、一九六八年には日本に紹介され、今も版を重ねている絵本です。

ある美しい朝、女の子(わたし)は一人、はらっぱに遊びにでかけます。はらっぱにはバツタ^aがいたり、カエル^bがいたり、カメ^cがいたり。リス^dもいれば、カケス^eやウサギ^f、ヘビ^gもいます。女の子はその一匹一匹に「あそびましょ」と声をかけます。でも、女の子が声をかけると、動物たちはみんな、女の子に背を向けて去ってゆきます。女の子は、仕方なくチククサの種子をそつと吹きとばしたり、池のそばの石に腰をおろして、ミズスマシが水にすじをひくのを見つめていたりと働きかけるのをやめ、音をたてずに、じつとしています。すると動物たちは一匹また一匹と戻って

5

きて、気が付くと女の子は動物たちみんなに囲まれているのです。

「ああ、わたしはいま、とつてもうれいなの。とびきりうれいなの」。女の子はそつと心の中でつぶやきます。

「なぜって、みんなが みんなが わたしとあそんでくれるんですもの」

① 私の大好きな絵本の一冊です。大事にしている絵本の一冊です。それこそ前の手紙に記した畏怖の念を抱かないではいられなくさせられる一冊です。

短大で児童文学の授業を担当していたとき、私は幼稚園や保育園に実習に出る学生たちに、授業で紹介したこの本をどうか忘れないで、といつも願っていました。学生たちと出会う機会がなくなった現在も、私はとりわけ幼い子どもたちと関わろうという学生たちには一度はこの絵本を体験してほしいと願っていますし、いえいえ学生だけでなく、小さい人たちと関わる大人はすべて、いえ関わりなくとも、この絵本に出会ってくれたらと祈り続けています。

この絵本になぜそんなに執着するのですか？

15

30

25

の本は私に大きな問いを投げかけて、私を壊こわしてくれたからです。そして壊されてみれば、私だけでなく、どうやら35周りの人も、とくに小さな人たちと関わる人はいつそう、一度壊されたほうがいいのではないかと思われてきたからです。

なぜ？ 今、私たちのほとんどは活発に動くこと、そして他者に働きかけることをよいことと信じて疑っていません40。学生たちは、幼稚園や保育園に実習に出る前にはいつも担当の教師たちから注意されていました。

「子どもたちには働きかけるのですよ。とくにひとりである子には声をかけてあげなさい」

そうすることのどこがいけないのか。私もこの絵本に出45会わなかったら、すぐにそう問い返したくなかったです。

幼稚園、保育園に限りません。学校でも、大学でも、大人たちしかいない会社等の職場でも、さまざまな暮らしの場で、声をかけることに限らず、とにかく何かすることに疑問を抱く人はいません。すること、しないでいること、この二つを比べたら、^③誰だれもが、することがいいことだと考

えるでしょう。働きかけることと、働きかけずにじつとしていること。この二つを比べたら、誰だって働きかけることをよしとするでしょう。ただじつと待つこと、受け身でいることに何の価値があるの？ そう私たちは問いかけたくなってきました。でも、エッツの絵本、『わたしとあそんで』は逆に私たちに問いかけてくるのです。働きかけないこと、じつとしていることは、そんなに価値のないことかと。私たちは小さいときから、積極的に動くこと、他者、とりわけ自分より弱い立場の人に働きかけることは疑いよ60うもなくいいことだ、という価値観をさまざまところで植え付けられてきました。何もしないで、じつとしているなんて！というわけです。

1、エッツのこの絵本は働きかけないでいること、黙だまってじつと待つこと、それが私たちに、いえ双方そうほうにもたらすゆたかさ、しあわせのあることを語ってくれているのです。

2、いつもいつも、というわけではない。声をかけ、手を出し、他者に働きかけなくてはならないときは

山とあります。そういう場合のほうが多いでしょう。でも、70
それがすべてではない。

このことに気付かされてふと周囲を見れば、実際一見何
もせず、じつとしているだけと見える人に救われている場
合の何と多いことでしょう。突出せず、風景の一部とな
って溶け込んでいるゆえに、自分もまた **A** してそこ 75
に居続けられるケース。相手が黙ってじつとしてくれてい
たおかげで、自分が自分でいられたケース。そして私もま
たかつて勤務していた高校で、 **3** 短大で出会った
若い人たちから、ちゃんと教えてもらっていたのでした。
あえて働きかけなくても、静かに耳を傾け、注意深くし 80
ていけば、そのときそのとき相手が何を求めているか、こ
ちらがどう応えればよいかは、みんな当人たちが伝えてく
れることを。

ところが、私たちはいつの頃からか、動かずにじつとし
ていることに価値を置かなくなりました。忙しく動き回 85
る人こそ能力のある人であり、学生たちでさえ、 **I**

I ことこそ自らが有能であるこ

とを示す証しとして、価値を置くようになりました。ス
ケジュールに空きがあると、自分はおよびでないのだと
思つて **B** になる。かつてそれを「スケジュール 90
症候群」と名付けた心理学者もいます。

「お忙しいなか」は相手をほめることばとして、挨拶
に多用されていることはあなたもご存じでしょう。私は
講演などに招かれてそう言われるたびに、自分がそのよ
うにしか見えないとしたら、なんと恥ずかしいこと！
95

と思うのですが、挨拶ことばにいちいちたてつくわけに
もゆかず、言われるたびにひとり居心地の悪さをかみし
めています。本当は「忙しくしているひまはありません」
と声に出して言えたらいいのですが、なかなか難しい。
でも、この場をお借りして、なんとか思いがお伝えでき
たら、と願っています。いえ、「お伝えできたら」なんて
おこがましい。実は私もまた、ほうっておくとたちまち
忙しさがもたらす安逸※あんいつに身をゆだねてしまいそうになる
からです。らくだから。

もう何年も昔、新聞を読んでいて「人生すべて余暇」
105

という言葉に出会ったことがあります。たしか北ほく欧おう文学を専門にする方のことばでしたが、このとき私が思ったのは、こう言い切れる方の精神の強※きょうじん靱じんさでした。それは事実というより、その方の人生哲学てつがくで、実際には余暇とは言い切れないところも多くあったでしょうが、それでも私はそこに、穏おだやかな風貌ふうぼうをもつこの文学者の只ただもの者ものでない姿を垣か間い見また思おもいがしたものです。

自分は「人生すべて余暇」などと言い切ることができらるうか。そういう暮らしに耐たえられるだろうか。そう自問じもんしてみて、まだまだとても、と思おもいました。今いまだつて、あやしいものです。

すべて余暇とは、外からの課題が全くないこと。他者の力を借りずに自分で自分をすべて律りつすることです。働きつめつめで、疲つかれている者に、しばらくの休みはありがたいものですが、これが二年、三年と続いたら？ たどえ経済的に保障ほしょうされていて、何の心配しんぱいもいらぬとしても、これには相当な精神力せいしんりきが求められましよう。^⑤他者た者たから課題かだいを与あたえられない日々ひびを生き抜ぬくことは容易りやくなことではありませ

120

115

110

ん。

それでもKさん、あなたは、そしておそらくは誰もが、退たい屈くつを生き抜ぬいてきた。少なくともそういう時期じきをくぐつてきた。心当たりがありませんか。⑥そうです。子ども時代こどもじだいです。もつとも今日けふでは、大人おとなたちは他人ひとの子こども時代じだいに踏ふみ込んで、その退屈たいくつをどうんどん奪うばっているし、子ども自身みづかみスマホ等たがひらを手に、自分おのれから大切な退屈たいくつを手放てなしていつていようようにも思おもいますが、他人ひとから求められることの少ない子ども時代こどもじだいは本来ほんらい退屈たいくついっぱいいっぱいの、子ども自身みづかみいかようにも生きられる時代じだいなのではないでしょうか。

(清しみず水みづ真ま砂すな子こ『大人おとなになるつておもしろい?』岩波書店)

130

125

※安逸……気楽きらくに楽しむこと。何もせずのんきに過すごすこと。
※強靱……強つよくてしなやかなこと。

問一 ———— 線 a 「バッタ」、b 「カエル」、c 「カメ」、

d 「リス」、e 「ウサギ」、f 「ヘビ」のうち、数え
るとき単位が異なるものを一つ選び、記号で答え
なさい。

問二 ———— 線①とありますが、筆者はこの絵本のどの

ようなところに魅力を感じていると考えられます
か。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、女の子がさびしそうにふるまっているのを見て、
動物たちがはげましに来てくれたところ。

イ、女の子が働きかけるのをやめることで、動物たち
が女の子のもとに集まってきてくれたところ。

ウ、女の子が一人で健康に、はらっぱにいる動物たち
に声をかけたところ。

エ、女の子が森の動物たちを自分の友達として、積極
的にむかえ入れたところ。

問三 ———— 線②とありますが、これを適切に言いかえ

た文を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、どうしても抱いてしまう

イ、まれに抱いてしまうことがある

ウ、絶対に抱くことはありません

エ、まるで抱いたかのように感じる

問四 ———— 線③とありますが、誰もがこのように考え

てしまうのはなぜですか。本文中の語を用いて五十
字以内で答えなさい。

問五

1

3

 に入る言葉として適切な

ものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな
さい。

ア、もちろん イ、ところが ウ、きつと

エ、あるいは オ、やがて

問六

A

B

に入る対義語の組み合わせとして

正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A B

ア、失望―幸福

イ、熟練―未熟

ウ、安心―不安

エ、賛成―反対

問七

I

に入る内容を考えて書きなさい。

問八

線④とありますが、これはどのようなこと

だと筆者は言っていますか。三十五字以内で答えな

さい。

問九

線⑤

とありますが、なぜ容易なことではな

いのですか。適当なものを次から一つ選び、記号で

答えなさい。

ア、ひまを持って余すと、かえって体が疲れることにな

るから。

イ、自分自身で課題を見つけて、こなさなければなら

ないから。

ウ、退屈な時間が長いと、精神的に弱くなり、経済力

も落ちるから。

エ、課題が与えられないと、何も考えられなくなって

しまうから。

問十

線⑥

とありますが、その例を、子どもの様

子と大人の行動が分かるように、自分で考えて書き

なさい。

問十一 次のうち、本文の内容から見て適当なものにはAを、適当でないものにはBを解答らんに記入しなさい。

ア、退屈な時間を使って、相手にたくさん働きかけることで、相手が何を求めているかを知ることが出来る。

イ、一見何もせず、じつとしているだけの人が、実は誰かの助けになることがある。

ウ、本当に有能な人は、休みが無くても、その忙しさを周囲には見せずにふるまうことができる。

エ、退屈であることをよくないことだと思わず、静かに注意深く周囲を見ていれば、相手の求めに応じることができる。

③ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合により本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

将来、イスのデザイナーになりたいと考えている中学三年生の大木戸真と、モデラー(デザイナーの描いた図面をもとに制作を行う職人)を目指している同じ学年の早川梨々は、「全国学生フェアデザインコンペ」に自分達でデザイン・制作したイスを出品しようと話が盛り上がった。真の祖父と梨々の祖父はどちらもイスのモデラーである。真は自分の祖父に、出品するイスの背もたれの角度を、一〇五度にしたいと話していた。テーマやデザインの要点を真の家で話し合っていた二人であったが、実際の製造工程を真よりもよく知っている梨々は、真の出すアイデアを現実にしていくことの難しさを次々と指摘した。

① ぼくは梨々をまじまじと見つめる。

「あなどれないな、梨々って」

彼女は得意げな顔をした。

〈中略〉

「で、真のアイデアはわかったけど、a 形になってないって感じだよ。これじゃモデラーとしては、先に5進めない」

「うん。そうだね。じっくりアイデアを煮詰める」

「じっくり……ね。でも言わせてもらおうけど」

梨々はいつになく、きつい口調だ。

「b 四月の下旬だよ。七月上旬には、原寸模型を写

真に撮って、プレゼンパネルを作って、提出しなきゃなら

ないんだよ。その予選を通過できてはじめて、実物を搬入

して最終選考。だから、プレゼンパネルだって、時間かけ

てちゃんと作らないといけないでしょ。つてことは、原寸

模型完成させるまでに、あと二か月ちよいしかないわけ」 15

「うん、知ってる」

「でもデザインがしつかりできてないと、実物大どころか、

五分の一模型さえも作れない。一回作ってそれで終わりじ

やないんだよ。それから何度もデザイン修正、原寸模型修

正、すわってみる、デザイン修正、原寸模型修正、すわっ 20

てみる、のくり返しなんだよ。早くデザインを終わらせて

くれないと、間に合わないよ。わたし、プロのモデラーみたいにはつぱと作れないからね」

早口の梨々の勢いに押されて、ぼくは少し頭を後ろに引く。

「1」

「あやまんなくていいからさ。デザイン、ちゃんとやってよ。テストの勉強ばかりやって、プロジェクトのほう、ぜんぜん進めてなかったんでしょ」

カチンと来た。

「テスト期間中だって、c デザインは考えてたよ」

ウソだ。十日間、なにも考えなかった。手だけはスケッチをしていただけ、ただ鉛筆を走らせていただけで、じつはまったく考えていなかった。

「d デザインに集中してよ。時間がないんだから。」

あと、図面はまず五分の一模型用に描いてね」

なんだか、怒られておこっているみたいで気に入らない。

「たしかに模型を作るのも大変だろうけど、最初のデザイン段階は、もっと重要なんだよ。これはデザインのコンペなんだ。デザインにこそ時間をかけないと。ただ木を削つ

40

て組み立てるのは時間どおりに進められるだろうけど、デザインはちがう。何時間コツコツやったら必ずできるってもんじゃないんだよ。手じゃなくて、頭を使うんだからさ」

「なにそれ」

急に梨々が立ち上がった。

「なんか、上から目線じゃん？」

「え？」

「デザイナーが上で、モデラーが下みたいな言い方じゃん。」

「そんなこと言ってないよ。ただ、デザインはアイデアを出す仕事だから、一日何時間やったら必ず成果が見える手作業とはちがうって話」

「どうせこっちはブルーカラーだよ！ 真みたいに頭も良くないしね。わたし帰る！」

「2」

梨々はバッグにノートやペンケースを詰めて、ジャケットをおった。

「3」

引き留めるのも聞かずに、梨々はずんずん歩いてじい

45

やんに頭を下げると、さつきと帰ってしまった。

玄関のドアがゆっくりと閉まる。ぼくはただ、ぼーっと、60

それを見ていた。

だんだん、腹が立ってきた。

「なんだよ、あいつ。結局女ってヒステリーだよな。ふざ

けんだよ」

大きな声で文句を言うのと、^②きびすを返す。

テレビを消したじいちゃんと、目が合った。

「真、ケンカしたのか」

「べつに。あいつが一人で怒っただけだよ。まったく気ま

ぐれなやつさ」

「ちよつとここにすわれ」

じいちゃんが、めずらしくまじめな声を出した。

ぼくは茶の間の畳たたみの上に、あぐらをかいた。

「なに？」

「おまえ、まさかデザイナーが上で、モデラーは下みたい

に考えちゃいねえよな？」

「え、そんなこと」

75

考えたことないよ、と言いたかった。けど、どこかでそ

んなふうに乗っていたかもしれない。

ぼくがあこがれているのは建築家やデザイナーだ。モデ

ラーじゃない。もしかして、気がつかないうちに、梨々を

傷つけるようなことを言ったのだろうか。

「へっ、顔に出たらあ。頭がおまえで、梨々ちゃんは手足

か？そりやたしかに仕事の分担上はそんなふうを考えるか

もしれねえ。ま、本物のモデラーは頭もかなり使うけどな。

真、頭だけでっかくなつたって、ろくなもんできねえぞ。85

それに、職人を怒らせるようなデザイナーに、ろくなやつ

はいねえんだ。一流のデザイナーは、そんな態度で職人に

あたねえよ。仕事はファイフティ・ファイティだ。どっち

が上も下もねえぞ。ちゃんとあの子んち行ってあやまつて

こい。あんないい子、いねえぞ。まだ中学生だつてのに、90

いろいろよく知ってらあ。ありや、すげえモデラーになる

ぞ」

^③「……」

あやまりたいような、あやまりたくないような。

たしかに変なことを言ったかもしれない。けど、あんなふう
ふうに帰っちゃうなんて、大人げないだろ。十歳じゅうさいの力りきだつて、あんなことしないぞ。

「なんだ、ふてくされてんのか。そんじや聞くが、おまえ一人でできるのか？」

「そりや、できないよ」

「だろ？ ほんとはな、イスのデザイナーってのは、模型くらい自分で作れんだよ。原寸模型まで自分で作る人もいるぞ。おまえの好きなイームズ夫妻なんか、ひとつのイスを作るのに、原寸模型を五十も百も作ったらしいぞ。おまえにそれができねえなら、あの子たのに頼たのむしかねえだろ」

「……わかつてるよ」

④ ぼくはじいちゃんの目を見ることができない。

「いいか。よつく聞け。おまえさつき、一〇五度にしたいって言ってたな。いい角度だ。軽く寄りかかるのにいいあんばいだ。人間関係だつてそうだぞ。そりやな、九〇度なら一人で立つてられる。けど、人間関係はそれじゃうまく行かねえんだよ。かといつて、ソファや寝椅子シエーズロングみたい

ごろつと寄りかかるのも、良くねえ」

「どういう意味？」

ぼくはやつと、じいちゃんの目を見た。

「つまりな、そんな具合に思いきりだれかに寄りかかると、相手が支えきれなくなっちゃう。ちよいと寄りかかる程度がいいんだ」

「……」

「でな、向こうも困ったら、こっちにちよいと寄りかかる。向こうとこっちで寄りかかり合つて『人』つて漢字ができるみたいだろ。人間なんてのは、だれだつてだれかに寄りかかつて生きてんだよ。一人で直立してるやつなんて、いやしねえ。わかるか？ おまえは今、あの子にちよつとどころか、かなり寄りかかつてんだよ。なのに、直立して一人で立つてるような顔してやがる。わかるか？」

じいちゃんの言葉を、頭の中でくり返した。ぼくはたしかに、梨々に寄りかかっているかもしれない。梨々が今ぬ抜けたら、ぼくはすぐに倒たおれるだろう……。

突然とつぜん、すべてを理解できた気がした。

そうか、一〇五度どころじゃなくて、ぼくは思いつきり梨々に寄りかかっているんだ。しかも梨々が寄りかかってくることは^⑤ない。なのに、ぼくはえらそうに、一人で直立してるみたいにするまった。職人は黙^{もく}ってる的な、独裁者みたいな態度だったかもしれない。

「……わかった」

「わかりやいい。ほれ、さつさと行けって」

ぼくはうなずくと、財布とスマホをつかんで走り出した。

(佐藤まどか『一〇五度』あすなる書房)

※ブルーカラー……肉体労働者。

135

問一 ——— 線①「あなどれない」の意味として正しい

ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、信用できない

イ、ばかにできない

ウ、止められない

エ、ぬけ目がない

問二

a

く

d

び、記号で答えなさい。

ア、いちおう

イ、もう

ウ、もつと

エ、まだ

問三

1

く

3

れぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、「おい、ちよつと待てよ」

イ、「……うん、わかつてる。ごめん」

ウ、「な、なんだよ急に」

問四 ——— 線② 「きびすを返す」とありますが、真は

ここでどのような動作をしたのですか。ふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、腹が立って足をふみ鳴らす
- イ、気を取り直してくつをはく
- ウ、足をただじつと見つめる
- エ、玄関から部屋もとに戻ろうとする

問五 ——— 線③とありますが、真はどうして梨々にあ

やまりたい気持ちと同時に、あやまりたくない気持ちも持っているのでしょうか。その理由を説明した次の文の空らんらんに、本文中からそれぞれ適当な言葉をぬき出して入れなさい。

祖父（じいちゃん）の言葉を聞いて、もしかして□

ア（十字）□ ことを言ったのかもしれないと

思い、あやまりたいような気持ちが出てきたが、しかし、梨々が□ イ（五字）□ 様子でさつさ

と帰ってしまったことに対しては腹が立っているから。

問六 —— 線④とありますが、なぜ「ぼく（真）」はじ

いちゃんの目を見ることができないのですか。理由としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、いつも自分の味方でいてくれたはずのじいちゃん
が、梨々の実力ばかりをほめ、自分のことを少し
も認めてくれない様子に情けなくなってきたから。

イ、ふてくされていることを指摘され、せっかく梨々
にあやまることを考えていたのに、とじいちゃん
に対して反発し、意地を張る気持ちが出てきたか
ら。

ウ、梨々の助けがなければイスを完成させることはで
きないという、自分でもうすうす分かっていたこ
とをじいちゃんにするどく指摘され、心が痛かつ
たから。

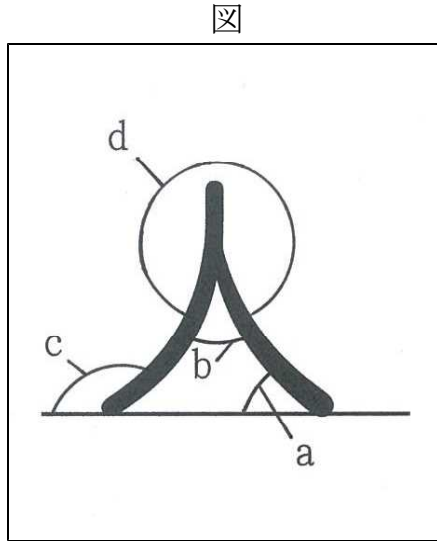
エ、梨々が打ち合わせの途中とちゆうでさっさと帰ってしまった
たことに対しては何も言わず、自分だけを責める
じいちゃんに対して、腹立たしい気持ちになつて
いるから。

問七 —— 線⑤とありますが、「ぼく（真）」のこのよ

うな態度がそのまま表れた言葉、梨々を怒らせてし
まった直接的な言葉を本文中から二十字以内でぬき
出し、最初の六字を答えなさい。

問八 この物語の題名は『一〇五度』と言いますが、本文の中で「じいちゃん」は人間関係における「一〇五度」について話をしています。

(1) そこで「人」という漢字をたとえに使っています
が、「人」という漢字のどこが「一〇五度」だと言うのですか。図のaとdから一つ選び、記号で答えなさい。



(2) 「一〇五度」の人間関係とはどういうものか説明し、それについてあなたの考えを書きなさい。